

Y07c 天文学と時間学

藤沢健太（山口大学・時間学研究所）

時間学とは、様々な観点において時間の性質および意味を明らかにし、その結果明らかになる時間の諸相が互いにどのように関連しているのかを描き出して体系化し、またその成果を社会の諸問題に適用することを目指す学問であると言える。古来より様々な学問分野で時間に関する研究が行われてきた。これら個別の時間論を扱ってきた学問分野は、一方の極に哲学が位置づけられ、社会学、人類学、経済学、法学、言語学、歴史学、文学、心理学、医学、生物学、地球科学、数理科学、とほぼあらゆる学問にわたり、もう一つの極に物理学が位置づけられる。天文学における時間論は物理学を基礎とするが、歴史性を持つことから地球科学的な性格もある。

山口大学時間学研究所は日本で唯一の、時間学を専門とする研究所である。時間学研究所の究極の使命は、時間学という新しい学問を構築することである。言い換えれば、時間学はまだ学問としての体系も十分には確立されていない。多くの学際領域研究に共通するように、時間に関わる研究内容の豊かさゆえにその全貌を描き出すことが困難なのである。この難題を突破するには、多くの研究分野・研究者を巻き込んだ研究の推進が必要である。この講演では、天文学にたずさわる多くの研究者が時間学にも興味を持ち、時間学における天文学的な内容を豊かにすることに寄与することを訴えたい。

時間学研究では活動の一環として時間学の体系化を目指したシリーズ書籍「時間学の構築」を継続的に出版している。これまでに「1巻 防災と時間」「2巻 物語と時間」「3巻 ヒトの概日時計と時間」を出しており、第4巻は「宇宙と時間」（仮題）として2020年度の出版を予定している。この書籍制作の準備として「宇宙と時間」に関わるワークショップを開催する予定である。